

資料 2

屋根用応急シートブルーシート(ポリエチレンクロス・ラミネートシート)に関する 製品 JIS を制定

—高い耐久性能・防水性能により安心を届ける応急シート—

2026年2月20日

近年、自然災害による住宅屋根の損傷が頻発しており、応急処置として使用されるブルーシートの重要性が高まっています。他方で、これまで、ブルーシートの強度や耐候性といった性能やその試験方法が統一されていないことが原因で、自治体や施工業者などが適切なブルーシートを調達する上での課題がありました。

そこで今般、災害時の応急処置を目的とするブルーシート(ポリエチレンを主材料としたクロス・ラミネートシート)の品質や基本的な製品仕様などを規定した JIS を新たに制定しました。

本 JIS の制定により、自治体や施工業者などが適切に製品を選択できる、信頼性の高いブルーシート市場が形成され、災害対策の強化等の推進に資することが期待されます。

1. JIS の背景・目的

近年、台風や豪雨などの自然災害により住宅屋根の損傷が頻発しており、被災地ではそれら損傷に対する応急処置を迅速に行うことが強く求められています。しかし、自治体などにおいて屋根などの建築物外皮の応急処置のために従来使用されてきたブルーシートは、強度や耐候性といった品質や性能にばらつきがあっただけでなく、長期間の使用や保管に適さないといったケースも見られました。

そこで、今般、屋根などの応急処置を目的とするブルーシートの品質や性能、試験方法等を定めた JIS を新たに制定し、自治体や施工業者などが信頼性の高いブルーシートを適切に選択することができる環境を整備しました。



屋根用応急シートの施工例 (出典・左：萩原工業より提供、右：一般社団法人プロボノ消防志より提供)

2. JIS 制定の主なポイント

今般、新たに制定した JIS A 6932 は、災害時の応急処置を目的とするブルーシート（ポリエチレンクロス・ラミネートシート（以下、「応急シート」という。）の品質、構造、形状・寸法、厚さ、単位面積質量、外観、材料、試験方法、検査、呼び方、表示などを広く規定しています。また、制定に当たっては、応急シートの引張強さ、耐候性、防水性能、寸法、長期保管性などの性能試験を実施し、災害現場での使用条件を踏まえた評価を行っています。

本 JIS の主なポイントは次のとおりです。

① 耐候性や防水性能などの性能要件を明確化

災害時の屋根の応急処置に不可欠な耐候性や防水性能、長期間保管するために必要となる長期保管性、強度を確保する観点から求められる引張強さなどの力学的性能について、それぞれ試験方法とともに定めています。

② 形状・寸法などを規定

応急シートの形状は正方形又は長方形とし、寸法の呼び※については幅・長さ・厚さの範囲が明確になるよう定めています。材料については、主材料をポリエチレン又はポリエチレン再生材と定めるだけでなく、ロープ等に用いる材料なども定めています。さらに、単位面積質量の基準値を設定し、製品の軽量性と強度のバランスを求めていることに加え、外観については、損傷や異常がないことを求めています。

※対象物の大きさを代表する、名目上の寸法

③ 製品の呼び方、表示、報告などを規定

応急シートの製造事業者と、自治体や施工業者などの注文者との取引において、当事者間の相互理解を促進し、取引を円滑化するために、製品の呼び方や包装に表示すべき事項、応急シートのカタログなどに記載すべき項目などを定めています。

3. 期待される効果

本 JIS の制定によって、一定の品質や性能を確保した応急シートが市場に広がり、自治体や施工業者などが災害時に応急シートを安全に利用することが期待されます。また、応急シートの製品の呼び方や表示、報告様式が市場において統一されることで、製造事業者の情報や試験結果についての確認が容易となり、取引における透明性が確保され、自治体や施工業者間での円滑な情報共有が進み、品質管理や調達に係る効率が向上することも期待されます。これら一連の効果により、信頼性の高い応急シート市場が形成され、災害対策の強化等の推進に資することも期待されます。

※日本産業標準調査会（JISC）の HP (<https://www.jisc.go.jp/>) から、「A6932」で JIS 検索すると本文を閲覧できます。

【担当】 経済産業省 イノベーション・環境局 国際標準課

bzl-s-kijun-ISO@meti.go.jp、03-3501-1511(3423)

(課長)中野 (担当)湯川、本田、百瀬、武本